

つして、さけなほしめさしまして、御方たがへになり、ないし、まよくを持って御さきへ参る。次に勾當ひとへぎぬ著て、劔をもて参る。御後には女中襦ばかりきて、ひるまうけの所にいらせましまして三獻にいたる。三獻め天酌にて女中をとこ御とほしあり、御前をてつして、殿上人御鳥三聲の後還御。勾當御やく拂引合め御としの數、鳥目御としの數、もて参る。御身をなでられて返さる。給はりてうしろをかへりみざるやうに退く。故實とす。

〔洞中年中行事十二月〕節分入夜御盃事あり、此時に豆打事あり、御盃過て後此豆を内侍間々に打也。略中 小キ、四角なる行器に煎豆を入れて、三方に乗て是を御前へ獻す。御盃過て内侍此行器を二ツならべ、まん中を左の手にさげ持、右の手にて後へ三度打事也。此時女房ははつき袴びんすべらかし也。

〔禁中年中行事十二月〕節分 初獻イモ 小預調進 二獻マメ 同アコア 常御殿勾當内侍被拍子之供御所、山國拍之、對屋御清所仕丁頭拍之。

〔禁中近代年中行事正月〕節分の夜 細きごぼうをかをさり、丸にて長サ一尺計にして、三斗かわらけに入臺にのせ、小刀を付ケ出ル、小がたなをおそへごといふ、東の方へ向し桃の枝を少し切、御茶釜にてにる。御せんじ茶をあげる時、まめ三ツぼ、さんせう三ツ入上ル、いり豆さんせう御茶がまへ入臺高サ五寸、長サ七寸、横五寸、くりあし。

〔年中恒例記〕十二月 節分事御祝参、伊勢守調進之、大獻御太刀金、御馬一疋進上之、伊勢守則御三盃頂戴之、此太刀有春朝臣給之、七獻節分御成、伊勢守、御小袖の間には大豆を自うたる、也、劔役人在之、常御所以下、伊勢守うち被申候也、御するは伊勢同苗、中節分にむぎの食御いも、大草調之、節分御館にうたる、大豆勝栗、伊勢守進士也。

〔宗五大草紙〕上方様諸家へ御成の事